



# 南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成31年4月26日

校長 星美登里



## 「令和、いいですね」

校長 星美登里

1か月前は、校庭の桜が見事な花を咲かせていましたが、今はまさに「若葉が茂る」時期、桜も草木もたくさんの葉が明るく輝いて見えます。

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る…」5月2日に「八十八夜」を迎えます。「茶摘み」の歌で有名な「八十八夜」とは、暦の上で立春から数えて八十八日たった日のことです。昔は、今のような天気予報はありませんでした。毎年、「八十八夜」には温かく好天になるので、茶摘みや農作物の種まきをする目安の日になりました。この時期に摘む新茶は、極上の高級品で味も栄養もいいそうです。八十八夜にお茶を摘むことは、天気予報の技術もないはるか昔から、人々が自然から学び受け継いできた大切な生活の知恵なのです。

今年のゴールデンウィークは10連休、30年に及んだ「平成」の時代から「令和」の時代へと歴史的な変換を遂げます。昭和生まれの私にとっては、昭和・平成・令和という3つめの「時代」の幕開けです。これまでの元号がいずれも中国の古典が典拠となっているのに対し、「令和」は初めて日本最古の和歌集「万葉集」からとったことから、歴史の大きな転換期だと感じられます。

新しい元号「令和」は、「万葉集」という日本の一番古い歌集の梅の花の歌から選んだのだそうです。

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」「厳しい冬の後には梅のような美しい花を日本国民の一人一人が咲かせられるように」という願いが込められているそうです。こんな時代にしていきたいですね。

毎日、お昼の放送の時間に放送委員会の子供たちから、「校長先生の一言」を放送してもらっています。先日は「令和」の意味について紹介してもらいました。この原稿を渡したとき、放送委員会の6年生は、原稿を読むなり「いいですね」と、とびきりの笑顔を見せました。

今の小学生はみな、平成生まれの子供たちです。子供たちにとっても「令和時代」は大きな転換期になることでしょう。「令和」の時代を創っていくのは、「いいですね」と言った6年生をはじめ、まさに今の子供たちです。これからの社会は「予測不可能な社会」になるとも言われていますが、人間には、生きていくための昔から変わらない様々な知恵があります。また、その時代に合わせた新しい知恵を生み出す力もあるはずで、昔から変わらない知恵を大切に、新しい知恵を生み出す力を学ぶ。6年生の子供の笑顔は、そんな教育を目指したいと思いを新たにさせてくれました。